



医療法人財団 織本病院 広報誌

月刊 織本

1

2021年1月1日 vol.317

発行 医療法人財団 織本病院

印刷 〒204-0002

東京都清瀬市旭が丘 1-261

TEL 042-491-2121

URL <https://orimoto-hp.com/>

発行人 高木 由利



梅

あけましておめでとうございます



理事長 高木 由利

月刊織本を毎月書き始め26年以上が経ちました。ここまで私が書き続けることができたのは、読者の皆様の温かい励ましのお言葉があったからです。本当に心から感謝しております。

* * *

2021年は織本病院にとって大きな年となります。それは、新病院の建設が始まるからです。私が理事長になったのは42歳でした。そして、預かったこの建物を大切に使う最大限の医療をしようと思ってきました。しかし、まさか自分が現役の理事長時代に新しい病院を建てるなど考えもしなかったのです。

日本はこの30年間で大きく変化し、また発展しました。特に度重なる震災、天災を経て安全対策が見直され、耐震構造の強化を含め病院の災害対策はより一層完全さを求められてきたのです。補修工事を繰り返し多大な工事費をかけるくらいなら、新しい病院を建てるべき時期ではないかと私は考え始めました。そして、私の心の中の最終決断は最新の設備を備えた病院を建てれば、この病院は今後また40年間くらいは維

持できる。そして新病院で次世代の先生方を中心として、病院職員達が一丸となって、清瀬市旭が丘の地で最高の医療を実践できたらどんなに素晴らしいことか。若い先生方や職員達はその完成した病院で働く姿を頭の中で思い描いた時、何とも言えない充実感が満ち溢れてきたのです。

そしてもう1つ、ずっと願っていた病院の改名。織本病院は清瀬市旭が丘の地で今まで以上に皆様を支える新しい病院になりますという宣言を込め、“医療法人財団 きよせ あさひが丘記念病院”と改名させて頂くことになりました。新病院建築の工事期間は約1年半を予定しています。皆様が困った時に気軽に受診して頂き、更に気軽に入院して頂ける快適な治療環境を目指しております。どうぞ私達と一緒に楽しみにして頂ければ幸いです。





新年の ごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。昨年、新型コロナウイルスに始まり、あっという間に一年が終わった印象をお持ちの方がさぞ多いことでしょう。また、12月下旬には、寒波が到来して大雪となって
関越自動車道で1000台以上の車が立ち往生とのニュースもありましたが、寒さ対策については、現代社会では沢山の選択肢があります。しかし治療薬



専務理事
箕輪 比呂志

の無い新型コロナウイルス対策は、手洗い、マスクは当然ですが、目に見えない敵から身を守ることが難しいと感じた1年でした。職員の感染に対する意識の向上と感染対策の努力の甲斐もあって、幸い当院の職員、そして、入院患者の方々に新型コロナウイルス陽性例が無かったことでクラスターを起さずに通常診療を行えたことに、ほっと胸を撫で下ろしています。

偶然にもこれまで経験したことが無い厳しい環境の中ですが新病院建築構想もここまで来ますともう後戻りができません。病院建て替えの可能性を探る段階から5年の歳月を費やした当院の新築工事を今年2月に開始することが正式に決まりました。理由は、既存の織本病院の建築構造では、年々脆弱化していく耐震構造や配管、水回りの老朽化により、安心、安全な医療を継続して提供することができないからです。

新病院建築資金は、12月18日付けで公的機構の融資審査を通り、新病院建築の請負については、建築会社8社からの申し込みがあり、12月24日の公式な最終選考を経て、翌25日、大成建設株式会社に発注することになりました。

今回の建て替えの目的は多々ありますが、第一番目は地域医療を支えることにあります。具体的には、清瀬市並びに、周辺の高齢化が進んでいると共に、新築住宅が建つことでニューファミリーの流入もあることから、地域に根差した、頼りになる「か



エントランスホールイメージ



病室イメージ



新病院外観イメージ

かりつけ医」を目指して、診療を継続することにあります。そのために、病院名を「医療法人財団 織本病院」から「医療法人財団 きよせ あさひが丘記念病院」と改めます。2022年5月末には竣工となり、同年8月1日には新病院への引っ越しを完了して、地域の皆様のための病院として新たに生まれ変わります。

尚、近隣住民の皆様には、着工に伴う工事車両を始めとした安全管理、騒音の軽減など可能な限りの配慮を心がけてまいりますので何卒、ご理解の程、お願い申し上げます。



散策路イメージ



院長 / 心臓血管外科
藤木 達雄

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、新型コロナウイルス感染の流行から始まり、その後の流行拡大が収まらず、とても大変な事態に陥っています。連日新規陽性者数が過去最高との報道が続き、大晦日には東京都で、1,300人を超える感染者の報告がありました。まさにコロナ禍という表現がこの状況を言い表しています。

昨年の年頭の挨拶にも書きましたが、新型インフルエンザを念頭に、色々な感染症の国外からの持ち込みや発生に対し、私たちは他施設とも連携し準備や対策を行ってきました。しかし、新型コロナウイルス感染は予想を大きく上回るものでした。このとても大変な状況に、織本病院が今できること・やるべきことは何なのかを良く考え、基本に返ることが大切だと考えました。それは、私たち織本病院の全ての職員が、感染しないこと、そして感染させないことです。感染しないこととは、日常の行動にまで制限を行い注意することです。感染させないこととは、既に自分自身が何らかの感染症を持っていると意識し、マスクの着用や手指消毒の励行など標準予防策を行うことです。入院中の患者さん、外来通院をしている患者さん、織本病院をご利用くださる全ての方々の安全・安心を守るために、私たちはこれからも感染対策を行って参ります。そして、織本病院へご来院される皆様にもお願いがあります。施設内に入る際は、検温やアルコールでの手指消毒のご協力をお願いします。発熱がある場合には事前に連絡をしてください。皆様の健康や安全を守るための行動です。

気温も下がり、これからますます厳しい状況になると考えられます。医療体制も逼迫しており、高度医療を提供する大学病院や中核病院でも新型コロナ感染症以外の疾患の受け入れも困難になっています。感染対策はもとより、健康には十分注意してお過ごしください。最後に、この厳しい状況の中、我慢ばかり強いられながらも感染者を出さずに尽力し、病院運営ができていることに対し、職員の皆様に感謝致します。

新年あけましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルスが猛威を振るう中、日々の診療を安全に乗り切ることができました。職員・患者様・地域の皆様に心より感謝を申し上げます。

消化器内視鏡検査も春には大きく件数が落ち込んだものの、夏以降は復調の兆しを見せ、特に大腸ポリープ切除術は昨年を大きく上回る件数となりました。近隣医療機関から内視鏡や消化器精査目的のご紹介を頂くことも増えてきました。

引き続き、安全には細心の注意を払って診療を行ってまいりますので、身体の不調時にはお気軽に受診、またご紹介いただけましたら幸いです。



医局長 / 消化器内科
島田 祐輔

だんだんと気温が下がり冬本番を迎えますが、気温とともに空気も乾燥していきます。1年の中で最も湿度が低いのが1月ですが、東京都の平均湿度は51%で、2011年には最小湿度が9%まで下がった記録があります。さらに、暖房の影響や建築技術の向上で建物の密閉性が高まったことで、室内の湿度は20%以下になることも稀ではありません。

低温と乾燥による健康障害としては、風邪（風邪症候群）やインフルエンザなどの呼吸器感染症がまず思い浮かびます。風邪の原因は様々ですが、そのうちの80～90%はウイルス感染で、低温と乾燥を好むウイルスが少なくありません。また、インフルエンザウイルスも同様に低温と乾燥を好むウイルスです。ウイルスは感染者のくしゃみ、咳などの飛沫に含まれて、空気中にまき散らされます（飛沫感染）。飛沫は湿度が高い状態ではすぐに地面や床に落ちます。しかし、湿度が40%以下に下がった環境では、飛沫の水分が蒸発することで落下速度は遅くなり、30分以上も大気中を漂います。さらに、ドアノブ・手すり・エレベーターのボタンなどに付着したウイルスは、低温・乾燥した環境において長時間感染力が持続し、条件が良ければ最長で1週間近く感染力があるとされています。

さて、風邪やインフルエンザのウイルスは、口や鼻から体内に入ります。喉や鼻の粘膜にはウイルスを防御する機能がありますが、湿度が40%以下に下がると、その機能が低下します。さらに、湿度30%以下の過乾燥状態では防御機能が極端に弱まり、免疫が大きく低下してしまいます。そのため、加湿器、加湿機能のある空気清浄機、加湿グッズ、濡れたタオルや洗濯物を干すなどして、湿度を40%以上に上げることが重要です。また、外出時のマスクは必須ですし、こまめに水分補給をして喉の粘膜を乾燥させない注意も大切です。さらに、体温の低下も免疫と関係があり、体温が1度下がると免疫が30～40%低下すると言われていますので、外出時は温かい服装、マフラーや手袋など防寒対策を十分に行い、体温が下がらない様に注意しましょう。勿論、睡眠不足や過労を避ける、栄養のバランスが取れた食事をするなど、免疫が低下しないような注意も必要です。

なお、体調不良の時は、自己判断せずに医療機関に連絡し、受診するなど早めの対応がとても大切です。



内科・糖尿病外来

佐藤 潤一

さとう じゅんいち

腎疾患・糖尿病ゼミナール中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大に伴い、昨年未までの腎疾患・糖尿病ゼミナールは全て中止とさせて頂きましたが、残念ながら未だ終息の兆しが見えないことから、本年も引き続き**腎疾患・糖尿病ゼミナール及び新春特別講演会を中止とさせて頂きます。**

今後の開催につきましては、感染状況等を考慮したうえで判断し、当院ホームページ・当誌（月刊織本）・院内掲示ポスター等で改めてお知らせいたします。

ご参加を予定して頂いておりました皆さまには申し訳ございませんが、ご了承くださいますようお願いいたします。